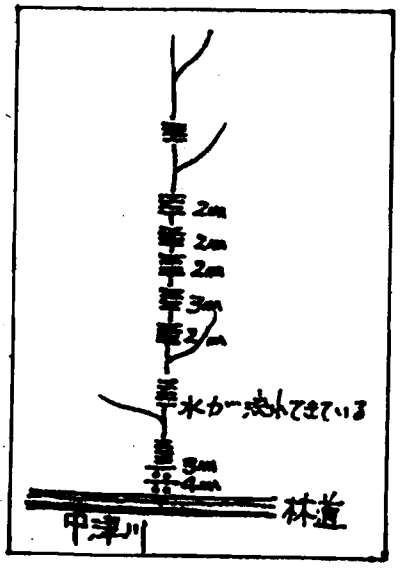
がかぶさり，貧弱である。遡行を開始して15分程で二俣に到着。この上部はスケールは小さいがナメとなっている。次に３ｍ，２ｍと小滝が出てくるが，あとは沢が分かれ，源頭となってしまう。ヤブがかぶさり，水もなくなった所で遡行終了とする。所要時間は30分程であった。　　(記・

［タイム］　平ノ沢出合(9:45)→二俣(10:00)→遡行終了(10:20)

大　沢

1985年10月19日
L:

中津川林道ゲートに車を置いて，林道を歩く。毎度のことながら，ゲートの存在がうらめしく感じられて仕方がない。30分程で大沢出合。



林道からの取り付きは，いきなり４ｍ，３ｍと続く２段滝である。水が一滴もないカレ沢であるが，高橋さんのためにザイルを使用して登る。上はナメとなっていた。

15分程歩くと水が出てきた。出合から全部岩盤であるのに，水はどこへ消えてしまうのだろう。不思議である。

この先もナメの連続である。藪になってきたあたりで遡行終了とし，山の神沢右俣の下降めざして右岸の藪こぎを開始する。　(記・

［タイム］　林道ゲート(14:30)→大沢出合(15:00)
→遡行終了

山の神沢左俣

1985年7月21日
L:

中津川林道にかかる橋を降りて沢に入る。３ｍのチョックストーンを越すと砂状の河原となり，沢は蛇行している。つづいて灰青色のナメ床となる。やがて沢幅が広がり，左岸から10ｍ程のナメ滝をかけて左俣が合流する。

小滝を境にナメ床の色が茶褐色に変わる。広々としたナメ床をのんびり行くと，５ｍ程の幅広い滝が現われる。水は左側をＳ字状に流れていて，なかなか趣のある滝だ。左岸には15ｍ程のカレ滝がかかっていて，ここだけは茂庭の沢らしから